

午前10時40分再開

○副議長（柴山恭子君） 休憩前に引き続き、会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、14番梶原康嗣議員の質問を許可します。14番梶原康嗣議員。

（14番梶原康嗣君登壇）

○14番（梶原康嗣君） 皆さん、おはようございます、14番梶原康嗣でございます。

36年前の話をさせていただきます。実は36年前、農協青年部の推薦をいただきまして、15泊17日で米国セミナー、カリフォルニア農業の研修視察に行かせていただきました。サンフランシスコに着きますと、その当時、5台に1台が日本車ということで、トヨタであったり、日産であったり、ホンダであったり、特にホンダのシビックには大きな外国人が運転席に背をかがめながら運転をしておる、そういった滑稽な様子もありました。

また、アメリカの中央部にはシエラネバダ山脈というような大きな山脈があり、そこには雪解け水で人工ダム、それから貯水池等々を設けながら、我々より大きな導水管が何本も走って、サンフランシスコからロサンゼルスまで導水管が通って、農業用水はもちろんのこと、家庭のガーデンといいますか、芝生にはスプリンクラーが音を立てて回っております。

そういった中で、ちょうどその当時、現地の方の視察で話を聞きますと、もうすぐしたら、このカリフォルニアの地からレーガンさんが大統領になるというようなことで、カリフォルニアの農畜産物が日本にどんどんやってきますよと。また、米も日本へ輸出されますよというようなことを聞きながら、何で米までが日本に来るじゃろうかと、その当時は思っておりました。

そういった中で、特に印象に残ったのを2点だけ発表したいと思いますが、現地の方いわく、日本は観光の国でしょうと、農業をするにしても観光と農業を結びつければ、何とか立派な農業ができますよというような、本当にもう36年前、そういった方の話を聞きました。

それから第2点目。第2点目は、日本は農耕民族ですよと、農業に対してはすばらしい英知を持っておりますので、ぜひ農業するならば、この広々としたアメリカに来て農業をせんですかというような現地からありがたいお言葉を聞きながら、井の中の蛙が大海を知ったというようなことであります。

あとは質問席から質問をさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

（14番梶原康嗣君降壇）

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） まずもって通告書の訂正をお願いしたいと思いますが、①番で安心・安全は確約されているのかというような項目がありますが、これは安全・安心に書きかえていただければありがたいなと思っております。

では、始めたいと思いますが、杷木地域新設小学校建設に当たり、平成27年10月、第18

回準備委員会にて、小学校の名称を杷木小学校とすることが賛成多数で確認され、その間、20回ぐらい開催されながら、専門部会も開催されています。その間、本当にこの準備委員会には苦難の道をたどりながら、また苦難の道は何度もあったものの、平成30年4月開校に向けて着々と進行しておりますことに、準備委員会の委員長さん初め、委員さんの方々には本当この場を借りましても敬意と感謝を申し上げるものでもあります。

しかしながら、一方では、中学校跡地には小学校併設には県が示した土砂災害警戒区域がある等々の事由によって、杷木新設小学校を考える会というようなものも発足しているのが事実でもあります。

同時に、杷木地域にお住まいの皆様へというくだりで、同僚議員といいますか、そういった方が杷木世帯の全戸に、私に言わせれば、これは住民の方に不安を与えるような文面ではないのかな、議会一般質問からの考察というような形で手紙が渡っております。去年の多分11月の終わりごろにこういったものが杷木地域の全戸に配付されたというふうなことでありますが、12月になって、ある会合とか、いろんな行事とか、そういったときに多くの方々から私は批判を受けました。何でかという、危険な区域に何で小学校を建てないかんと。また、今の中学校には35センチの水がたまっただけなとか、また市は何も対応はせんよげなと、そういった声を私は何人からも聞きました。

きょうは本当に私はそのとき、本当に矢面に立たされながら困惑、一種の怒りさえ感じておったというのが事実でもあります。本当に同僚議員には何も批判をしようというようなことではありませんし、恨みつらみも何もないなど。

そういった中で、あえて一般質問の中に私は杷木地域新設小学校建設について検証し、これを問うというような一般質問をさせていただきたい、そのように思っております。明確な答弁のほど、よろしく願いを申し上げます。

あとは私の性格上、大きな声になるかもしれませんが、そのときにはお許しを願いたいな、かように思っただけの質問をさせていただきます。

まず冒頭に、市長、それから教育長、杷木地域にお住まいの皆様へというような、こういった手紙はお読みでしょうか。事前打合会のときに、これに従って一般質問するかもしれんもんなどということも言うておりましたので、多分、読んでいただいたかな、かように思っております。

そういった中で、市長、それから教育長、多分これを中身を読んで、率直にどのように感じ取ったかなと。私は朝倉市の名誉が傷つけられているのではないかな、かように強く思っております。市長、教育長、忌憚なく答弁をお願いし、また私が一般質問が終わった時点で、最後にまた市長と教育長に答弁をよろしく願いしたい。まず市長、教育長、よろしく願いします。

○副議長（柴山恭子君） 市長。

○市長（森田俊介君） そういう手紙が去年に何か杷木地区の各戸に郵送されたという話

は聞いておりました。実はそのときは私は見ておりませんでした。梶原議員が一般質問されるというようなことで見させていただきました。

個人が自分なりの考え方を住民に知らせるということについて、私たちがどうこう言うべき問題ではなかろうかというふうに思っています。

ただ、でき得るならば正確なことをお知らせをしていただきたいと思うのが私の気持ちであります。

○副議長（柴山恭子君） 教育長。

○教育長（宮崎成光君） 配られました資料につきましては読ませていただきました。この資料を読ませていただきまして、私たち教育委員会としましては、そうではないと思われる箇所がございました。その点について、きょう御質問いただきましたので、公の場でこれについては事実是这样であるということが述べる機会がいただけたらありがたいと思っております。

以上でございます。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） そこで、まず安全・安心は確約されているのかというような項目から入りたいと思いますが、この安全対策については、ここに彼の議事録も持っております。また重要な部分には何度も読みながら附箋も入れております。そういったものからきょうは質問させていただきたいと思いますが、まず、これは市長は同僚議員が何回も何回も質問をする中で、子供の安全・安心には万全を尽くすと、やるべきことはやる、今できることからやっていくというような答弁をいただいておりますし、しかるべき、しかる措置でやります。じゃあ今、いつやれと言われても、それはいろんな調査も必要です。その上で判断してやりますというような市長の答弁が繰り返し行われております。

また、教育所管におきましても、建設準備委員会の正副会長さんに同行しながら、県土事務所、土砂災害警戒区域の要望書の早期着工を、ぜひとも早期に着工しろというようなことも県に要望をしておるといような事実もあります。

また、市長部局の建設課、建設部長は、杷木中学校グラウンドは土砂災害警戒区域ということで対象にしておりますと。やらないとか、やることじゃなくて、どこが危険なのかを判断してやっていかないかと。来るべきときが来たらやりますというようなことを何回もこれには明言しとる。

しかしながら、私に言わせると、この中には、市は何もしよらんち、極端に言うと、どのくんだりかな、こげん、市は県に対して問題の土砂災害防止のための事業実施と早期着工の要望すら、この「すら」はまた赤字で書いちゃう、早期着工の要望すらしていない。県は安全の担保はできないと明言しているのに、市は詳細な調査もしよらんと。本当にこれは建設課、私は市は独自にそういった土砂災害警戒区域、それから土砂災害特別警戒区域等々においては、急傾斜地も含まれておりますが、独自で調査をしたのではなかろうか

と思っておりますがいかがでしょうか。

○副議長（柴山恭子君） 都市建設部長。

○都市建設部長（熊本正博君） 今、議員の言われた件でございますが、私ども都市建設部としまして、特にこれは建設課の担当になりますが、調査を行っております。まずは福岡県のほうで調査を行っております。それで、その基礎調査資料に基づいて、また朝倉市のほうで調査を行っております。

その結果、これを報告させていただきたいと思えます。これは杷木地域についてでございます。急傾斜地の崩壊、それから土石流、それから地すべり、これをあわせて報告させていただきます。

志波地区で現地調査を行いました結果、64カ所、これは家が5戸以上あるところの調査の結果でございます。これについては土砂災害地域と、それから土砂災害特別警戒地域を含めておりますので、そういうことでお願いいたします。それから久喜宮地区につきましては14カ所、それから杷木地域におきましては33カ所、松末におきましては85カ所、トータルで196カ所、この危険であると言われる地域の調査が行われております。

だから全くやってないとか、そういうことはございませんし、私も平成24年の7月3日の災害からいろいろやってきましたから、やはりいつでも危険であるということを身にしみながら、この仕事をやっていかないかんとやなど、そんなふうに思っております。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） 今の建設部長のほうから、本当に詳細にわたっての説明がありました。そういったことで、私は中学校のグラウンドの西側といいますか、そういった部分に土砂災害警戒区域に入るとるというようなことで、やんややんや言いながらの質問が議事録に載っとる中で、私はその上の、じゃあ下池田団地はどうなっとるのかと。あそこは、あの住宅建造物がそのまま土砂災害特別警戒区域、私に言わせるならイエローゾーンとレッドゾーンがありますが、土砂災害特別警戒区域、レッドゾーンに入るとるとじゃねえかと、私は早期着工を望むとするならば、そこにもいろんな方が生活の営みをしております。そこのほうが私は危険じゃないかと、かように思っておりますが、建設部長、答弁ができますならばよろしく申し上げます。

○副議長（柴山恭子君） 都市建設部長。

○都市建設部長（熊本正博君） これは前、議員が言われておりましたときにも御説明をいたしました。この件につきましては、やはり下池田団地は、そこに人が住んであっておられる場所でありまして、その横の今言う学校、中学校跡地で、今度、ここは危険であるというところは対象とはしておりますが、やはり朝倉地域の中で、今言う下池田地域のところの調査を行った結果で一番危険なところに調査の中では上がっておりますので、ここを1番にやっていただきたいということで、福岡県のほうにこの文を提出をさせていただいております、要望を。

以上でございます。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） それから、この地域の皆様へという中で、平成27年3月議会で部長答弁で、下のほうはもう足りない計算になる、平成24年7月3日、市民野球場、杷木中学校、JAが調整池となって下流の浸水を防いだと推測されると、このようなくだりもある。私に言わせるなら、この文言は、これは大変なことじゃろう、かように思っております。杷木のグラウンド、体育館、これは昭和45年から46年にかけて、自衛隊にて、堤もありましたが、山を削り取って埋め立てたと。その当時、グラウンドは久喜宮、若市の構造改善事業補助金で農村広場、その当時、農村広場としてグラウンドが設立され、また体育館は労働省の勤労青少年体育センターというような名目で、その当時、旧甘木市の遠藤先生にお願いしながら、遠藤先生の力添えで設立したというようなことも聞いております。

そういった中で、そのグラウンドに当たっては、その後、水路設計、それから流量計算、暗渠の排水、その当時では最善の策を尽くして施策工事をしたというようなことも聞いております。

また中学校。中学校においては災害時には35センチの高さの水位ができたということですが、これは正確に調べました。正確に言わせていただきますと、杷木のグラウンドへ行く道路がありますが、それが一部崩壊して濁水が中学校の東側へ一部流れ込んだと。

それから、彼はこういったことは全然言うたらん、東側の水路は、その災害があったときには流木とかタイヤがひっかかって、水がたまって水がはけんやっただというような事実もありますよ。これはもう本当、これは確認しております。

それから、中学校の池田若市線がずっと通っておりますが、そこにはずっとフェンスの内側には樹木が植えられております。その樹木には盛り土もしちやる。それから石で周りを囲んじゃる。それとまた、南側全部に、南側その道路、南側全部に至ってはブロックで花壇がつくっちゃる。だったら水はどこをはけますか。彼が言うごと、7メートルか8メートルか知りませんが、校門を激流として水が下ったと。そういった花壇やらでブロックでせきとめてれば、そこしか下る道がない。これは教育長、どのように思いますか。部長でいい。

○副議長（柴山恭子君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） ただいまの職員室前に水深30、あるいは35センチもの水が流れたというふうなことで富田議員のほうから指摘がございましたけれども、実際は職員室前の校庭の駐車場があるんですけれども、その中央部から職員室側にあります溝までの高さが約20センチから30センチ低くなっております。そこに多量に降りました雨水が集中をして、はけ切れずに停滞しておったというふうなことで教育委員会のほうとしては考えておりますが、その停滞いたしました水も、約1時間ほどで解消ができてるというふうに学校側からの報告は受けております。

以上でございます。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） それからJ A、これは以前の杷木農協支所に当たっては、その当時の朝倉市の組合長さんから、実は杷木の支所には改修建設の計画があると。また斎場をも計画をしようと。しかしながら、中学校から、それからその中学校の上には大きなマンションも建っておりますが、マンション等々からの水も農協にどんどん流れ込みよると。肥料倉庫も、それから資材の店舗もありましたが、そこが大雨のときには水が入り込んでどんこん困つとると。梶原君と、あなたに地元の議員として何とかしてくれんじやろうかというような話がありましたので、これはもう今の建設部長、当時の建設課長でありましたが、課長、こういった話がありますので何とか対応してくれんねというようなことで話をしましたら、あんなふうな身軽な建設部長でありますので、すぐに来ていただいて、何とかしましようということで、農協の真ん中にずっと大きな水路が通っておりますが、そういった部分まで拡張、拡張工事をしていただきながら、早期に改修をしていただいた。本当にあの当時の組合長さんは、本当に朝倉市には感謝をしようとというようなありがたい言葉もそのときいただいておりますが。

しかし、この中には杷木の市民野球場、杷木中学校、J Aが調整池になつとると。そこで、これはまた広辞苑とか言いよると市長が笑うかもしれん、わざわざ広辞苑を開いて答弁をせないかんとか、質問せないかんとかというような議事録のくだりがありますので、私はあえて広辞苑等は使いませんが、百科事典で調べました。建設課長、あの調整池の意味を、それから調整池とは何かをここで説明してください。

○副議長（柴山恭子君） 建設課長。

○建設課長（上野雅義君） 調整池とは集中豪雨などの局地的な出水により河川の流下能力を超過する可能性がある、また洪水時期に河川に入る前、一時的にためる施設です。集中豪雨のピークはほとんど短時間であるため、一時的に降水を池で受けとめること、徐々に放流させる、局地的な氾濫を抑える機能を有します。主に氾濫上、住宅開発により地下への雨水浸透能力が損なわれたときに設けられるものでございます。

以上です。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） 調整池とは、私も百科事典を調べながら、ここに持っておりますが、全く課長と同じような調整池の説明、それから概要を持っております。

そういった中で、彼が言うには、野球場、それから中学校、J Aが調整池になつたと、それでもって下流域、流末、正確に言うなら杷木の西町地区というところがありますが、そこに、そこでの災害を防いだと。私に言わせるなら、何も調整池にも何もなつたらん、J Aにこういったことを言うなら、何でJ Aはうちの杷木の支所が調整池になつとるとか、私はJ Aが抗議せないかん、こういったものは、と僕は思う。

防いだと言いますが、私はその7月の3日、電話があった、7時過ぎに、すぐに来てくれということで、その西町地域の現場に行きました。そこには本当、昔の大きな市道と、また裏手には小さな市道がありますが、そこにはもう橋を越すような真っ赤な濁流が流れて、ある店舗には水が入りこみ。そして、そのすぐ下にはクランク状態の川があります。そのクランクのところもどンドン水があふれよる。すぐ下には、今は古賀歯科病院、それから手島眼科、両左岸、右岸、そこも石積み、それからブロック、それはみんな一部分、5メートルぐらいが崩壊しとった。私に言わせるならば、こういったもので調整池で3つの施設が防いだと言うなら、そこにはこういった大きな災害はなかったはずと僕は思っとる。すぐこれも建設課に来ていただいて、杷木地域には一番、本当一番に左岸、右岸、石積み、ブロック積みを開始していただいた、本当にありがたく思っております。

こういったことで、でたらめなことばかり書きながら市民の不安を与えとる。私はどンドン大きな声にさせていただいておりますが、これは私は事実として捉えたいき、こういうような大きな声になる。

それから、重要なことがある。教育委員会、これは何ページかな、4ページ、住民、保護者への安全についての説明会、これを読まれたらわかつとるでしょう、教育部長。そういった中で、準備委員会の構成メンバーはいろんな団体から選出されている関係で、PTAの保護者の総会なり、会合がある中で、PTA会長、副会長のほうで、準備委員会であった説明会、報告会等々はお願いをしますよというような依頼をしているということでありまして、これは私に言わせると、これもまた不思議、4つの小学校の校長先生、それから1人の中学校の校長先生は、準備委員会でも同調しながら、そういった市長等々、それから教育委員会のやりとりに同調しながら何も反対しよらん。

しかし、私は何が言いたいのか、3つのPTAの会長、副会長が危険区域じゃねえか、反対をされちよる。これは事実であろうと思っておりますが、教育部長、答弁をお願いします。

○副議長（柴山恭子君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） 確かに今、梶原議員がおっしゃいましたようなことは耳に入ってきてるところでございますけれども、るる建設準備委員会の中で問題提起をしながら全員で協議をしてきておりますので、そういったPTAの会長がそういう意見を申し述べられるということについては、教育委員会としては甚だ遺憾に思っておりますのでございます。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） ここには、それは中学校の校長先生なり、PTAの会長さん、副会長さん、それから区会長さん、いろんな団体の方もおられますが、私に言わせるならば、その依頼をしておるという中で、果たして中立、公正な説明が一般の保護者の方、それから一般の住民の方に中立、公正な説明がされておるのか、これが疑問。

あえて大きな声で言う、これは。私のこれはもう政治生命にもかかつとる。何が言いた

いか、わかるじゃろう、部長、何が言いたい。そこには、これはこういったことを議場で言うのはどげんかと思うが、それぞれの選挙の支持者がおる、そこには。選挙の支持者によって、私に言わせるなら住民の方々に説明のしぐあいが違う、それぞれ。例えば言うよ、梶原康嗣を応援しよる人はこげん言うよ、私の考えに基づいてこのことを言う。しかしながら、違う方は違う方の考えに基づいてこげなふうでございますというような濁った部分、中立、公正じゃない部分があるとじゃなからうか、そやけ、考える会もできたっちゃないかな。

もう一遍、答弁。

○副議長（柴山恭子君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） 先ほども申し上げましたように、建設準備委員会の中でいろんな議論をしてきております。ですからPTAの代表、あるいは学校の校長、あるいはそれぞれの団体から出てきていただいた代表の方につきましては、建設準備委員会の中で議論をし、ある一定の方向が出たことについてのみ真実、あるいは事実を公平に地元のほうに伝えていただきたい、そういったことは何度も建設準備委員会の中で申し上げてきておりますので、そのような事実のみについて下におろしていただきたいというふうに教育委員会としては考えております。

以上です。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） それじゃいかんとじゃ、それじゃ。僕は言いよるじゃんね、それはそこに果たして、それはあなたがたい、中立、公正ち言いよるばってん、果たしてよ、人間の気持ちとして果たしてその中立、公正、中立、公平、そういったものがあればいいたい。しかしながら、これは私はないけん、こういった考える会なるものがたい、誰かの主導で行われるとじゃないですか、部長、僕はそげん思う。

だからたい、だから、もうそろそろ準備委員会も大詰めになって、7つやったかな、専門部会は、7つの専門部会もできながら、いろいろと最後の詰めに入っております。また近々、準備委員会も開催されますが、出席させていただきますが、もうそろそろ、これは教育部局の主導で、あなたたちならば中立、公正、中立、公平な立場で、そろそろ保護者、それから住民の方々に何かの場所で、それとか何かのときに適正に的確に周知がすべきが来とるんじゃないかなと思っておりますが、時期についてはわかりませんが、そういった質問に対して、私はもうそろそろ教育委員会が住民に対して正確な情報を示す時期になっとりゃせんか、このことについての答弁をお願いします。

○副議長（柴山恭子君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） 確かに梶原議員おっしゃいますように、これまで20回程度の建設準備委員会での協議をしてまいりました。その都度、それぞれの代表者の方には結果なり、その協議の内容について御報告を下のほうにおろしてくださいというふうなことで

言っておりましたけれども、これまで教育委員会が主導になっての地元説明会等についてはここまで行ってきておりませんので、もう実施設計も終わり、あと建築等に入っていくわけですので、時期を見ながら教育委員会のほうで地元説明会なり、PTAの方々への説明は必要であろうというふうに考えております。

以上です。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） ぜひとも強くお願いをしながら、ぜひ実現をしてください。よろしく願いしときます。

それから、これはどこだったかな、避難場所、これは消防防災課やったかな、避難場所について、これ、黄色い手紙によると、朝倉市の考え方というところで、朝倉市全体の中で考えますと、50年先の避難所のあり方については示せない。ただ、このくだりだけ。これ、このくだりだけでたい、やっぱりこういったことがかかわるんなら、杷木の全戸の住民の方々には不安に思うよ。

私は議事録を何遍も見た。あえてこの場でから正確な議事録、正確な消防防災課の答弁を私が読ませてもらう。まず、草場消防防災課長、ある同僚議員が避難場所の設置について、50年後について、朝倉市はどうなのかと質問しとる。答弁は、朝倉市の中で考えますと、50年先の避難所のあり方については示せないというような答弁だけ。

しかしながら、議事録を見るとたい、それから先のくだりがあなたは立派なことを言うとする。読ませてもらう。ただ、今の段階で50年後の避難場所をどうするのかということは、ここでお示しすることはちょっとできませんが、いずれの場合におきましても、その時々状況に応じた避難場所というのを考えていかなければならないふうに思っております。具体的には地区の状況をよく知ってある、特に自主防災組織の方々へのお知恵をお借りしながら、地域と行政が協力し合って考えていくものと思っております。立派なあなた答弁しとるとたい。くだりはたったそれだけ。

それから、もう1つ言う、もうついでに。前の防災課長の半田、前の防災課長の議事録、答弁。避難所の開設の考え方について申し上げます。避難所の開設につきましては、災害の種別、規模、状況によって我々は判断をしています。近くの避難所を開設することが望ましいとは思いますが、地震や土砂災害などの災害種別によっては開くことのできない施設もあります。災害の種別、規模、状況によって判断することになります。最近の多くは、福祉的な要素が高い避難所を開設しておりますけれども、被害の規模や、また被害が長期化するときには、学校施設等の収容能力の高い施設を利用することもあると考えられております。こういった執行部は立派な答弁をしとる。しかしながら、これには何も書いちゃらない。

最後に市長ち言いよりましたが、中間、市長、どのように考えておりますか。

○副議長（柴山恭子君） 市長。

○市長（森田俊介君） 最初にも申し上げましたように、議員のそれぞれの政治活動の中でそういったビラ等を配付されることについては、私どもがとやかく言う筋合いはございません。ただ、これは文章にしますと、言った言葉を全体の中の流れの一言だけ取り出しますと、本来の趣旨と違った意味にとられることがある。そういったことを十分やっぱり考えた中で、そういったビラ等というのは発行していただきたいというのが私の思いであります。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） 消防防災課長に、これはちょっと前後したなと思いますが、聞きたいと思いますが、杷木地域における避難場所、これ、朝倉市が指定しておるのかどうかは別として、杷木地域における避難場所はどこなのか、何カ所なのかをお尋ねしたいと思います。

○副議長（柴山恭子君） 消防防災課長。

○消防防災課長（草場千里君） 杷木地域における避難場所ということでございますが、7カ所あります。4つの小学校、それから杷木中学校、らくゆう館、サンライズ杷木、これで7カ所ということでございます。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） ありがとうございます。これは合併前の旧杷木町時代、これは朝倉市になってもかとは思いますが、これは災害規模等々で避難設置場所は、これは変更されるということは十分わかっておりますが、一応杷木の指定避難場所は、私は普通ですよ、普通と言うたらいかん、災害時のときにはらくゆう館、それとサンライズか志波小学校かな、どっちかの2カ所ではないかな、かように思っておりますが、被害状況、被害限度によっては、今、課長が言うごと、おのおのの小学校、中学校も含まれての7カ所でございますというような答弁でしたが、これは私に言わせると、避難場所はそれは収容人数が少なければ、指定の設置場所も少ないにこしたことはない。何でかという、その避難設置場所を設定すると、そこには必ず市の職員が張りついちよかないかん。例えば杷木が、これは乱暴な言葉かもしれん、しかしながら7カ所避難場所を設置したと。そしたら、それぞれの住民の方々があちこち7カ所行くならば、人員の把握が私は職員では困難であろう。そこを心配しよる、私は。

彼に言わせると、これは杷木の支所と書いちゃう。それは杷木の支所かもしれんが、杷木の支所はいろいろとごった返して避難場所にはならんち、こういったことも書いちゃう。それは杷木の支所にも西側には畳の座がありますが、私は杷木の支所ではないな、らくゆう館、それからサンライズであったな、そのように思っておりますし。

先ほどから言うごと、余り多過ぎると職員の対応、住民に、被災者にする対応は困難であるかもしれん。そういった場合は防災課長、どのように考えておられるのかを質問いたします。

○副議長（柴山恭子君） 消防防災課長。

○消防防災課長（草場千里君） 災害の種類とか大きさによりまして避難所の開設する箇所を決めておるところでございます。やはり一番最初にあけるのは市内で4カ所程度になります、フレアス甘木とか朝倉の生涯学習センターであるとかいうことで、杷木地区といたしましては、やはり最初、らくゆう館をあけさせていただいておるところです。

被害の規模が大きく予想されるような場合につきましては、今言った7カ所をあけるようなときも出てくる可能性は当然あることだと思います。ただ、水害などのときに、例えば筑後川の増水があつてるときにサンライズをあけるのかどうかとか、近くにありまして、そういう判断はやはりさせていただいて、災害の種類、規模によってさせていただきたいというふうに思います。

また、避難所の配属の人数ですけども、今のところにつきましては、初期につきましては職員が配属をするというふうなことでございます。ただ、現在、全力所あけたというようなこともございませんので、その辺はまた今後、シミュレーションとかもちょっとやってみなきゃいけない部分もあると思いますけども、何におきましてやはり地域の皆さんの命、財産、けがをしないように、それを第一に考えていかなきゃいけないというふうには考えておるところでございます。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） ありがたい答弁、ありがとうございました。これは24年の九州北部豪雨のときにも、道路等が寸断されたりしたときには、杷木地域には自治区の公民館があります。寸断されて通行が不可能というときには、松末の小学校の体育館も避難所として開設をされた。また、哭坂というところがありますが、穂坂地域には通行は全然できんということで、穂坂地区の公民館に避難所を設けて、避難者の方々にそこに集合していただいたということで、やはりそのところは災害の種別、それから道路状況等々を鑑みて、地域の方々と協力をしながら、随時に避難所は設定をしてもらいたいと強く要望をしておきます。

それから、いよいよもう最後になりましたが、所管の常任委員会等に対して、これまでの経過及び事業の進捗状況をどのように説明されているのかということでもあります。これは教育部局に質問いたします。よろしく申し上げます。

○副議長（柴山恭子君） 教育部長。

○教育部長（前田祐二君） 平成25年の10月に公式の場であります杷木地域新設小学校建設準備委員会というものを発足をいたしております。それで、現在まで20回ほど協議を行って、建設開校に向けて準備を今の段階で進めているところでございますが、この建設準備委員会で協議、あるいは結論を出しました内容につきましては、総務文教常任委員会において、これまでほぼ毎回、会議の中でこれまでの経過、あるいは協議の結果について報告、説明をしてきてるところでございます。

また、土砂災害警戒区域に関しましても、その内容、要望書、それに対する回答などについて説明、報告をして、総務文教常任委員会の中で質疑を受けながら、それに対して回答、あるいは答弁をしていくというふうなことで行ってきたところでございます。

また、委員会のほうにおきましては、自主的に杷木中学校の北西部に位置します土砂災害警戒区域の現地の視察もしていただいております。

それから、さらに市議会全員協議会におきましても4回ほど、同様の内容を報告をしてきたところでございます。

以上でございます。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） 総務文教常任委員会も建設経済常任委員会でも現場を視察をしながら、その目で確かめ、確認をし合ったというような報告も聞いておりますし、議会としましては議場での教育委員会、それから市長部局からの一般質問等々での安全対策は十分考えるというような答弁もいただきながら、実現すべき最優先に取り組むというようなことです。本当にこの議会としましては、子供の安全・安心について、十分に今後もそういった議会でのやり方を我々議員18名がそういったことで注視をしながら捉えていくと、対応していくというようなことでもありますし。

そういった中で、これはちょっと誤解があるなと思いますが、先般来、議会での議会報告会がありました。そういった中で、我々はA班なのか、B班なのかは別として、2班に分かれてそれぞれの会場で議会報告会をしました。そのとき、その折に、私は地元の杷木でありましたので杷木会場に行きましたが、それぞれやっぱり優先項目といたしますか、そういったものがそれぞれ違う。

特に杷木はバサロ、それからこの小学校、小中一貫校の併設のことで論議がありましたが、これは前もって言わせていただきますが、杷木地域のコミュニティ会長から、じかじかに議会に対して、新設小学校併設におけるところの土砂災害対策はどうなっておるのかと、議会はどのように考えておるのかというような質問アンケートといたしますか、そういったものが議会事務局に配付をされました。

それによって我々は答弁をいたしておりますが、これは今、議長席におる柴山副議長が、これは私に言わせるなら常識のある人がその質問をしまった。これには進行上、バサロ問題がずっと長引いて、俺たちにもまだまだ質問があるとぞというような状況下の中でしたが、私に言わせれば、常識のある人がこういった質問をしまった。

これは録音テープを議会事務局にお願いしながら書面でかえさせていただきますが、教育長、ちょっと読ませていただきます。議会で杷木地域の何々議員が一生懸命、学校問題を議論されていると思います。皆様方議員は、自分には関係ないとか、そういったことを思っている方はいないとは思いますが、私たち杷木地域は本当に子供が少なくなり、4つの学校が1つになりますと。それをもちまして議員から一生懸命、土砂災害のことでい

いろいろ言っておられますが、それを皆様方、議会報告会に来った議員の皆さんです、同僚議員と一緒に同じ気持ちを考えを持っておられるのかどうか。例えば杷木町3名の議員だけに投げ渡しているのではないかと思うことがあります。そういうことがないかどうか確かめたいと思います。

これはもう常識のある方です。すぐ副議長が、柴山副議長が答弁されております。私たちもやはり子供の安全はとても大事であるということは考えておりますと。市長から安全対策について十分考えるとの答弁を毎回もらっております。その答弁を実現すべき我々は考えていますというような答弁を柴山副議長が答弁しなされた。

また、それについて、〇〇議員が本当に杷木の子供たちのことを思って一生懸命言っていると思います。それに本当に感心をしておりますと。それで皆様方が1人でも〇〇議員のほうに、皆さんの気持ちが子供のことを一生懸命思っていることはわかりますが、何ていうのかな、形が見えてこんど。本当に皆様方の自分の地域のこととして捉えておるのかどうか。旧朝倉町、旧杷木町、何かそんなふうな気がちょっとして、私には杷木は杷木のことには杷木でしなさいというような感じを受けています。それを取っ払ってください、それだけを希望します、よろしく願いますというようなことで、何か1人の議員が、私に言わせるなら1人の議員が中学校、小学校、そこに災害警戒区域がある、1人の議員だけが一生懸命しよる、ほかの議員は何もしよらんじゃないか。これは私も含めて最初に言うたごと、康ちゃんち、あそこはあんた、災害危険区域に入っちゃるとじゃねえなというようなことが飛び交うとで、こういったことで。これは良識のある人も、こういったことで、これはもう口悪く言うなら行政批判をすればたい、一生懸命、議員活動、政治活動をしよる。そんなふうには私は受け取る。

もうこれはいよいよ最後になりましたので、教育長、それから市長、最後の私の心情を察しながら、最後の答弁をよろしく願います。

〇副議長（柴山恭子君） 市長。

〇市長（森田俊介君） 梶原議員初め、特に今回の杷木地域の統合小学校の問題については大変に御心配をいろいろかけておりますこと、まずは感謝申し上げたいというふうに思います。

その上で、人にはいろいろな考え方があんだなと。ともすると大きな声出して反対しよるけん、その人だけが一生懸命しよるという見られ方をする場合も往々にしてあります。しかし、私どもはそういったことはそういったこととして、やっぱり杷木の統合小学校の問題については、やるべきことをきちっとやって、立派な小中一貫の学校をつくるというのが教育委員会も私どももその使命だろうというふうに考えておりますので、今後もひとつ御協力をお願い申し上げまして、答弁とさせていただきますというふうに思います。

〇副議長（柴山恭子君） 教育長。

〇教育長（宮崎成光君） 日ごろから議会の中、また常任委員会、それから全協等の中で

この問題について積極的な御意見、御指導をいただいておりますことに感謝を申し上げたいと思います。きょうはいろんな動きの中で、教育委員会の取り組んでいますことについて誤解をされているような節もある部分について、真実はどうなのか、事実はどうなのかということ述べる機会をいただいたこと、ありがたいと思っております。

この学校が安全な場所であるということにつきましては、これまでもそのようにしたいということで述べてまいりましたが、今回、いろいろあっておりますのは、基本的な学校の安全については共通してると思っていますが、その考え方、安全確保の手法とか考え方、手続の問題、それからいつまでという期限の問題につきましては、お互いに十分わかり合えないもどかしさを感じております。

そういう複雑な無念と申しましようか、残念と申しましようか、そのような気持ちはございますけれども、杷木地域の懸案でございました松末小、それから杷木小、久喜宮小、志波小の今後の望ましいあり方について、杷木地域で十分協議していただきまして、杷木地域の意思として賛成、反対は必ずあると思いますが、全体の意思としてまとめていただきまして、それに従いまして強力に推進してまいりたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員。

○14番（梶原康嗣君） 市長、それから教育長から、最後、本当にありがたい言葉をいただきながら、我々議会も18名の議員もそれぞれこの問題については一生懸命取り組んでいくというような強い覚悟でもありますし、災害危険箇所についても執行部も十分対策をとっていくというようなありがたい答弁もいただきましたので、一生懸命、我々も頑張らないかんということで意を強くいたしました。

これで私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○副議長（柴山恭子君） 14番梶原康嗣議員の質問は終わりました。

午後1時まで休憩いたします。

午前11時49分休憩